

平成22年度事務事業実績及び前期4年間取組評価表

事務事業名	幹線道路改良事業	会計	一般会計	事業No.	571	施策順No.	44-005
		事業種別	政策・重点	予算科目	8-2-3-12-6		
政策	4 暮らしと生命を守る安全安心で快適なまちづくり			課等名	土木課		
施策	44 交通機関と道路の充実		事業期間	開始	終了		

1 事業の目的

事業の目的は「対象」を「意図」した状態にすることです	対象	幹線市道(1・2級市道)						A十分達成した Bどちらかといえば達成した Cどちらかといえばできていない Dほとんど達成できていない
	誰、何に	具体的な数値で表すと(対象指標)	19年度	20年度	21年度	22年度	23年度	
		幹線市道延長:m		384595	384397	383712	383712	
	意図	通過車両が便利で安全に移動ができる。						
対象をどう変えるか	事業の成果を具体的な数値で表すと(成果指標)	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度目標	22年度実績	23年度目標	目標達成度
	施工延長:m	2134	866	1368	731	1117	1077	A
22年度の目標達成度に対する振り返り【政策的事業のみ評価】		地元調整を図りながら事業が順調に進み、工法等を検討しながら行ったことにより、目標延長を達成することができた。						

2 手段(具体的な取り組み内容)

事業の制度(仕組み)説明	<p>市内外の各地を結ぶ国県道やそれらを補完する幹線市道(集落間の相互連絡の主たる道路)は、交通量の増加や自動車の大型化などにより、改修や拡幅等が必要になってきています。産業・経済・観光・文化の振興に寄与するため、幹線市道について、計画的な整備・改修等を実施し、安全で効率的な道路網の構築をする。</p> <p>・幹線市道(1級及び2級市道)を幅員5m以上に拡幅改良</p>		
	事業内容	名称	活動量・単位
22年度事業内容	1 市道1-39号母子ヶ谷線 他7路線(H21線越) 2 市道南信濃5号線 他19路線	1 事業実施路線数 2 事業実施路線数	1 8路線 2 20路線
23年度実施計画	1 市道1-39号母子ヶ谷線 他8路線 2 市道1-26号山麓線 他16路線	1 事業実施路線数 2 事業実施路線数	1 9路線 2 17路線

3 事業コスト

事業費	特定財源	(千円)	22年度予算額	22年度決算額	23年度予算額	特定財源内訳、補足事項
	国庫支出金		51,000	50,996		
	県支出金					(国)地域活性化・公共投資臨時交付金(10/10)12,000千円 (国)地域活性化・きめ細かな臨時交付金(10/10)38,996千円 (そ)繰越金 21→22繰越明許費57,701千円 22→23繰越明許費36,722千円
	起債					
	その他		6,075	6,075		
	一般財源		124,426	87,703	60,000	
	計(A)		181,501	144,774	60,000	
	正規職員所要時間			2,720		
	臨時職員等所要時間			80		
	人件費計(B)			9,813		
	トータルコスト A+B			154,587		

4 事業に対する市民や議会の意見

地元自治会等よりの要望に基づき計画し施工している。
---------------------------

5 行財政改革の取組内容【経常的事業のみ評価】

行財政改革の取組区分	【記載不要】	具体的な取組事項	【政策的事業のため記載不要】
21年度決算と比べての効果額(千円)	【記載不要】	効果額説明(算出根拠)、特殊要因	【政策的事業のため記載不要】

6 前期4年間の取組評価(総括)

上位の施策への結びつき	上位施策の目的	市民、市内滞業者、財産、事業者が、便利で安全に移動ができる	施策の成果指標又はムトス指標	市内の移動に不便を感じる市民の割合(道路):%
この事務事業は施策の目的達成にどのように貢献しましたか	4年間の振り返り	4年間の施工延長L=5,558m改良工事を行い安全な通行の確保ができた。		
	後期に向けた課題	未改良区間も多く引き続き進める必要がある		
この事務事業の成果を向上させるためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	改良工事を実施した箇所において、車輛のすれ違いが可能となり、通行の利便性が向上した。		
	後期に向けた課題	未改良区間、すれ違い不可能区間の改良工事に取り組むことにより、成果を向上させることができる。		
コストを削減するためにどのような工夫をされましたか	4年間の振り返り	工法の検討によるコスト削減を図る。		
	後期に向けた課題	工法の検討や効率的な事業実施によりコスト削減を図る。		
受益者負担の程度、市が関与する程度は適切でしたか	4年間の振り返り	市道の整備であり、道路管理者として道路整備を行った。		
	後期に向けた課題	市道の整備であり、引き続き道路管理者として関与する。		
多様な主体の役割の発揮状況 ①その主体は誰で、どのような役割を果たしましたか。 ②その主体が役割を發揮するために、行政はどのような働きかけをしてみましたか、又は、配慮してききましたか	4年間の振り返り	①市道の管理者は飯田市であり、通行車輛及び歩行者の安全確保。②道路管理者としての安全確保と利便性の向上の道路整備。		
	後期に向けた課題	①市道の管理者は飯田市であり、通行車輛及び歩行者の安全確保。②道路管理者としての安全確保と利便性の向上の道路整備。		
全体を通じて	4年間の振り返り	地元要望箇所など改良必要路線が多数あるなか、改良できた箇所・区間については、利便性が確保できた。		
	後期に向けた課題	未改良区間、すれ違い不能区間も多数あるが、市集中改良を行い、効率的な事業を進める事により、より一層効果を發揮できる。		

7 「対象」「意図」「結果」の関係の確認

事務事業を統合・分割する必要はありますか	ない	対象や意図を修正する必要はありますか	ない	成果指標や指標値を修正する必要はありますか	ない
----------------------	----	--------------------	----	-----------------------	----

8 総合評価・次年度の事業の方向性改善の計画

<input type="checkbox"/> 完了	<input type="checkbox"/> 拡大	<input type="checkbox"/> 縮小	<input type="checkbox"/> 別事業に統合	<input type="checkbox"/> 休止廃止	<input checked="" type="checkbox"/> 現状維持	<input type="checkbox"/> 目的見直し	<input type="checkbox"/> 事業のやり方改善
-----------------------------	-----------------------------	-----------------------------	---------------------------------	-------------------------------	--	--------------------------------	-----------------------------------